

**■児童・生徒の学力の状況**

○入学時より既に「学力の二極化」の傾向を示している。特に、数学や英語の積み上げ型の教科は、この傾向が強い。

○与えられた課題には真面目に取り組むが、継続的な学習習慣が確立していない生徒の割合が高い。

○理由を説明したり、条件に合った作文を書いたりするなどの、記述することに課題が見られる。

**■授業革新推進に向けた、指導上の課題**  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、そのためのツールとしてICT機器を活用した支援を推進すること。

○複数の文章や図・グラフを比較・関連付けて読むことや、他者とのやりとりを通して自分の考えを再構築すること等を計画的に配置した単元を構想すること。

**■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）**

○板橋区授業スタンダードに沿った主体的・対話的で深い学びを実現するために、様々な学力調査や定期考査及び生徒による授業アンケート等の結果分析を生かすとともに、教員同士の自発的な授業の相互見学により授業革新に努める。

○ワークシートの空欄を埋めるような活動ばかりでなく、長文に触れる機会を増やし、語彙力を高める。自分の言葉でまとめた分量（200字程度）の文章を書く機会を意図的に設定する。

○タブレットPCをさらに効果的に活用するなどして、他者と協働して自己の考えを発信したり深めたりするような学習を充実させる。また、双方向のオンライン授業を連動させる指導体制を整備し、効果的な学習習慣を展開する。

**■授業革新推進に向けての具体的な方策**

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○「めあての設定」→「自力解決」→「集団解決」→「まとめ・振り返り」の学習の流れを定着させ、解決する楽しさや必要感がある問題解決的な展開の授業の充実に努める。	○Input-Think-Outputの授業展開において、目的に応じてICT機器を活用しながら、言語活動で知識や情報をThinkすることを通してOutputする力を高める授業づくりに努める。	○総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力、態度等を各教科の学習において生かしていけるよう、各教科等の指導についても見直し、指導の改善を図る。

**■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組**

小中一貫教育の推進板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○総合的な学習の時間について、環境教育におけるSDGs教育の視点を踏まえ、学びのエリアの共通項などを探る研修会を実施し、カリキュラム・マネジメントの推進を図り、質的改善をめざす。 ○学びのエリア研修会で、各校の総合的な学習の時間の年間指導計画を見直す。	○各教科等との関連を明示した単元配列表とともに、育成をめざす資質・能力を記載し、それらが相互に関連することを示すことで、それぞれの学習活動の一層の充実と、資質・能力の育成につなげる。	○オンライン授業のシステム化も含め学校と家庭で学習ができるツールとして活用する。 ○生徒の自学自習力の定着に向けて、ドリルなどの学習コンテンツを放課後学習や家庭学習において、より効果的に活用する。 ○教員と生徒のコミュニケーションツールとして、休業時の健康状態、生活状況の把握、心身の不調、悩み、相談等で活用する。